

オルケストラ シンフォニカ タケイ

第八十四回

定期演奏会

創立70周年記念・故武井会長没後35年を追慕して

昭和59年4月9日(月) 6:30p.m.

第一生命ホール



LXXXIV GRAN CONCERTO

della

ORCHESTRA SINFONICA 'TAKEI'

Lunedì 4 Aprile 1984 alle ore 18:30

DAIICHI SEIMEI HALL

INIZIATORI ORCHESTRA SINFONICA TAKEI
SOTTO GLI AUSPICI ISTITUTO MUSICALE ITALO-GIAPPONESE
COMITATO DI "TAKEISHO"

主催 オルケストラ シンフォニカ タケイ

後援 日伊音楽協会・武井賞委員会

PROGRAMMA

PART I° Orchestra Sinfonica "TAKEI" diretto dal MURAO SUGITA

オルケストラ シンフォニカ "タケイ" 演奏

指揮 杉田村雄

1. OUVETURE in Re minoreSalvatore Falbo
二短調序楽 S. フェルボ
2. a. Intermezzo PAGINA D'ALBUM op.312Giuseppe Manente
間奏曲 アルバムの一葉 G. マネンテ
b. Valzer caratteristico EL MATADOR.....C. A. Bracco
特性的円舞曲 闘牛士 C. A. ブラッコ
3. Ourverture L'ETOILE DU BONHEURGiuseppe Frenzo
序曲 幸福の星 G. フレンド
4. Grande fantasia GRENADE MORISQUE.....Matias Marquez Garcia
大幻想曲 ムーアのグラナダ 大幻想曲 M. M. ガルシア
No 1. Prélude 前奏曲
No 2. L'adieu à Grenade du roi Boabdil ボアブディル王のグラナダへの訣別
No 3. Sérénade arabe アラビア風小夜曲
No 4. Danse et finale 舞曲と終曲

PART II° PREMIO "TAKEI" 1983 Compositione per chitarra

1983年度武井賞発表

OFFRANDE pour guitare.....HIROSHI HARA

ギターソロのための捧物 (ささげもの)

ギター演奏 宇田川 禎一

武井守成ギター 作品

ギター演奏 宇田川 禎一

雪もよい Atmosfera di neve op.62

やどかり Le crabe ermite op.83

黄色の花 Fiore giallo op.109

PART III° Orchestra Sinfonica "TAKEI" diretto dal MURAO SUGITA

オルケストラ シンフォニカ "タケイ" 演奏

指揮 杉田村雄

1. GAGAKU GO SHO RAKU-KYU.....Gaetano Comelli
雅楽 五常楽一急
2. COMPONIMENTO DAL M.S.TAKEI
武井守成作品集
a 小行進曲 ルイゼ Piccola Marcia "LOUISE" op.21
b 微風 Breeze op. 108
c 踊3小花 Danza del Fiore op. 14
d 朝鮮の印象 幻想曲 Impressioni Koreane Fantasia op. 20
e 祭礼の町角 La Scena della Festo op. 50

日本の誇る世界の名器

河野賢手工ギター

〒171 東京都豊島区西池袋5-27-20 ☎ 03 (957) 5574

O. S. T. 70周年に際し

理事長 杉田村雄

オーケストラ シンフォニカ タケイの創立は大正4年(1915年)ですから本年は丁度70周年に当り、戦争中の空白があるとは云え思へば永い年月、よくぞ続けられたのものである。感無量のものがあります。

私が武井さんを知ったのは大正12年第1回全国マンドリン合奏団コンコルソを主催された折、私達暁星学園卒業生で組織していたオーケストラ・エトワールが出演し、第2回目は優勝した其時からである。その為か当時入会には、技量試験身上調査があったのを無条件で入会出来て、第41回定期演奏会のプログラムに初めて名がのってうれしかった思出が今も忘れられないで居るが、O. S. T. は昭和48回定期演奏会(昭和18年秋)で中止され戦後復興第1回(49回)演奏会を昭和24年11月開催したが武井さんは其直後12月12日下谷のメソジスト教会での練習所で練習中指揮台上でおれ翌々日急逝された。逝去後35年に当るわけです。「マンドリン・ギター之父」と云われる様に其斯界に尽された功績は絶大で突然の逝去にマンドリン・ギター界は驚き悲しみに沈みました。

武井会長なき後は松谷理事長、兼藤理事、杉田理事で運営して居りましたが一応解散、其後新に改組私が理事長となり運営今日に至って居ります。武井文庫を始め、O. S. T. の楽器類等一切を武井さんの御遺族より私個人が譲受けて、名実共に後継者となったわけです。

改組第1回(通算60回)定期演奏会を昭和34年12月14日第一生命ホールに開催、指揮はガエタノ・コメリ、小林恵吾の両氏コンサートマスター杉田村雄でした。

武井さんの創設されたO. S. T. を其名に恥ぢない様立派に維持運営し音楽活動を進めて行く覚悟が其時生れた次第です。そして武井さんが生前していなかった音楽著作権を確立御遺族に其使用料が届く様にし、武井守成作品全集を「マンドリン・オーケストラによる日本の施律」3巻と「ギターによる日本の施律」1巻とにまとめ全音楽譜出版より刊行し、2L.P. レコード武井守成作品集は「ギター・マンドリンによる日本の施律」1・2集「若き日の思い出」3集をコロムビア・レコードで「日本の郷愁」をクラウン・レコードで発売、共にその印税を御遺族に差上げる様に致して居ります。

武井さんが果し得なかったO. S. T. の海外遠征、「ベルリン・ツップムジーク「74音楽祭」昭和49年5月への招待を受けベルリン、其他での演奏会、文化庁で認められて、海外交流基金でのローマ・日本文化会館主催の音楽会に出演し武井作品を紹介し、マンドリンの本場で絶賛を博し感激ひとしおでした。

現在、武井さんの指揮を知る当時のメンバーはマンドローネの高田三九三君、ギターの今津章君と私の三人にへってしまいました。70周年を顧み、武井さんを偲んで、今我々はO. S. T. を立派に永続させるべく覚悟を改めた次第。皆様もどうぞO. S. T. を今後共愛して見守っていただきたいとお願いいたします。

父のこと

足立直子

父が亡くなりましてから、もう35年ということでございます。

その間に、父のお親しくしておりました方々も、ぼつりぼつりと消えて行かれました。

その度びに、私は、父の、あの風に吹かれているような、細い体を思い出しました。

その方々と生前の父が、紫煙の中で語るさま、そして、懐かしい本郷の音楽堂の響きの中で、活気に溢れる様子。それらを御存じの方々も、もう数少なくなつてまいりました。

今、父はおそらく平安な中であつて昔の友と、音楽のこと、寄席のことなど色々なことを語りあつているものと、信じております。

父の音楽は、父のひととなりの通りで、日本人らしい、繊細な、そしてある意味では軽妙で、当時としてはハイカラという言葉があてはまるものでした。

父の音楽を、いまでも愛し続け、演奏して下さる方々に、心から感謝致すばかりでございます。

(筆者は武井守成氏の二女)

O. S. T. 第84回記念演奏会によせる

小原安正

早いもので武井さんが亡くなられてから、もう35年にもなる。当時、朝の新聞を見ていると武井さんの亡くなられた記事が出ており、早速、質屋にとびこんで御霊前を用意して鎌倉まで御伺いしたが、その時、目前を霊柩車がお通りになる所であった。

武井さんが私に下さった2曲は「水に落ちた蝶」と「破れたガラス戸」であるが、2曲とも戦後、爵位を失われてから書かれたもので、小品ではあるが、非常に印象派風なものであった。戦前の作品は割合に通俗的な曲が多かったが、戦後、自由になられてからは、自分の思った通りの作品が多くなったようである。私の最も心残りなのは、この2曲ともレコード化されているのに、御本人には一度もおきかせしなかつた事である。又、スペイン留学の折には、随分此の曲を演奏して好評を得ていたのに、作曲者の武井さんには、全くおきかせする機会の無かつたのは、大きな心残りである。武井さんの御功績を永久に残す為「武井賞」が設けられ、もの25回にもなる。御冥福を心より祈つてこの稿を終る。

創立 70 周年記念演奏会に寄せて (旧 O S T)

島 重 信

去る 1 月、渋谷公会堂で北大「アウロラ」を率いて「雨とコスモス」の見事な演奏を聞かせてくれた札幌の九島勝太郎氏と一緒にわれわれが武井さんの O S T に入会した翌年、当時の帝国劇場で開催されたのが創立満 10 年の記念演奏会であったから、それからかれこれ 60 年が過ぎたことになる。戦後武井さんが亡くなられて旧 O S T は解散したが、鎌倉の武井邸に主だったメンバーが召集されて、杉田氏が武井文庫の保管に当たるとともに O S T の名跡を継いで演奏活動を続けることについて、武井未亡人から相談を受けたことは記憶に新しい。その活動が今では旧 O S T と同じ期間に達したのであるから、その間の杉田氏の熱意と努力に対しては心からの敬意を表せざるを得ない。この記念演奏会を機として一層の活躍と発展を遂げられることを期待してやまない。

約 10 年前から始めたわれわれ旧 O S T の集まりも、メンバーが少しずつ減って行く心細さにめげず、菅原明朗氏らの諸先輩や同僚の温かい支援に励まされて楽しい会合を続けていることは喜びに堪えない。

50 年を回顧して旧 O S T 有志懇談会

幹事 澤 畑 誠

私が、武井さんの門を叩いて入金し、湯島の正音楽堂で合奏に加はって、既に、50 年を経過しました。当時を回顧して私の脳裡をはなれないものは、先ず、恩師武井さんのアンサンブルに対する、絶えざる、情熱であったろう。武井さんは、創設以来、マンドリンアンサンブルに対して、少しでも音楽性を高めるには如何すればよいか、その為に、先進外国の史的経過と実情の把握、及び現在のアンサンブル楽器の編成、改良を中心に、汎ゆる角度からの研究、研さんにあった。それと併行して、多くの識者がら広く意見を吸収することを目的に、マンドリン、ギター月刊誌の発行、更に、有能会員の協力（或時は犠牲）と、精進を頼りに、遂に自己の信念に近い画期的な編成によるマンドリンアンサンブルを造り上げた。これに併行して、忙しい体の中で、アンサンブルに適した自己の作品を発表して、このアンサンブルにのせて一層の斯界興隆に貢献した。実に、偉大と云うべき。

武井さんの功績は更に続き、著名外国人の楽譜の照会、並びに演奏家の招へえ、或は、国内に於ては、優秀作家の募集及び国内団体のコンクール等、広範に亘る発展業に貢献された。特に、以上の武井さんに対する魅力は高まり、有能な若い会員が相次いで集まり、これら多くの会員は、後々、斯道の為に指導者となり、或はプロとなって活躍された方が多い。

今日、創設以来、戦前戦後を通算して、70 回の定演と聞くに及び、この名跡を継いで活躍されている、杉田氏に敬意を表し、併せて今後の一層の発展を望んで止みません。
(S. 59. 3. 19)

O S T と共に

高 田 三九三

O S T が創立されてから 70 年になり、武井さんが亡くなってからも、早いもので、35 年が経っている。

いまでは私が最古参のメンバーになってしまった。本郷にあった武井さんのお邸にヒナ段付のスタジオがしつらえてあって、そこで毎週水曜日の夜になると、合奏が行はれたことが、なつかしく思い出される。

アマチュアの団体ではあるが、そのころは入会資格がきびしく、入団するには、技術委員がいて試験があり、技術のほうは優秀でも感じの悪い人は武井さんの面接があって、断られてしまったようである。

私は、はじめからマンドローネというでかい楽器を持たされて、無試験で入れて貰ったのはいいが、何の因果か、もう 50 年もこの楽器をいじくっていることになる。

杉田さんも暁星の「エトワール」という楽団を主宰して居られたが、タケイに合流して今では最年長のメンバーになってしまったが万年青年である。

コンサート・マスターの高野さんも、自分の主宰する楽団を投げ打って、タケイで活躍して居られる。

若い優秀な奏者が次々と入られて、O S T も若返り、その伝統を守っている。

手 工 絃 楽 器

S. Watanabe

マンドリン・ギター 他低音楽器
絃 楽 器 全 般 製 作 修 理

渡 辺 絃 楽 器 研 究 所

〒114 北区滝野川 5-43-5 TEL (916)8528(代)-9

曲 目 解 説

J. M. U. 副 会 長
O. S. T. 理 事 長
日伊音楽協会理事長 杉 田 村 雄
武 井 賞 委 員

二短調序曲

ファルボ(1872~1927)は当時イタリアの近代音楽に目覚めた進歩的な作曲家の一人であり、マンド

リンオーケストラ曲の代表作には他に「スパーニア」「組曲田園写影」がある。彼の作品は近代音楽特有の複雑な和音とオーケストレーションによってとっつきにくい印象を与え恐らく当時の人には難解で非常に表現の困難なものがあったと思われる。現代の我々の感覚には反って古臭さがなく新鮮なものを感じるのである。此曲に用いられたテクニックは元来マンドリン合奏には表現し得ないと思はれて居たフォルムの可能を立証し、同時に此曲によって「スパーニア」には見ることの出来なかった今一人のファルボに接することを得たのである。

不安な和絃の続くイントロダクションの後に、第一のテーマは第二マンドリンに現れる。そして此情熱的なテーマの後に第二のテーマが麗らかな南欧の原野を思はせる様な写景的な気分を以て、第一マンドリンに現はれて来る。我々は叙情的なテーマとこの叙事詩の様なテーマとのニツのポリフォニーの中に次第々々にそのクライマックスへと巻込まれて行く。尚此曲は1912年「イル・プレットロ誌」の第4回コンコルソに第一等賞を得、ついで同年ベルガモで行はれた合奏団競演会、第一部優秀団競演の課題曲としても選ばれている。

間奏曲 アルバムの一葉

マネンテは第一次大戦前イタリアの歩兵第83連隊長であった人で(1867生~1941没)

彼の師はナポリのガッティ、グワルド・デ・ナルディス及びローマのデ・サンクティス氏で当時新鋭の軍楽隊長だったといわれてます、従って作曲も吹奏楽が大部分ですがマンドリン音楽では「序楽メリアの平原にて」が最も有名で何処の合奏団でも必ず取り上げられてた大傑作です。尚此の他プレクトラム音楽では珍らしくマンドリンの為の4楽章の大シンフォニーを作曲しています。以上の二曲の様な堂々たる大作に反し此曲は其名にふさわしい可憐な美しい旋律を持った小品です。

闘牛師 特性的円舞曲

高野吉司 編曲

作者は、19世紀中葉、北部イタリアに生まれ、1903年逝いたイタリアのマンドリニスト、ヴァイオリニスト、指揮者、作曲家。1902年イル・マンドリノ主催の第6回作曲コンコルソで金牌受賞した作品「マンドリンの群」はマンドリン界でも知られてる大曲で必ず何所の合奏団でも必ず手がけている。

本曲は、1904年5月、つまり作者の死後、ポーニアのイル・コンチェルト誌上に発表されたものでスペイン風のワルツ。二長調に入ってからギターは、親指で打ち、繰返しの二回目は、特にカスターネットとタンバリンを静かに鳴らすよう指示がしてある。尚、El Matador は闘牛師、騎馬の闘牛師を Picador と称する。

序曲 幸福の星

1923年4月本曲が公に発表されてから作者の名は斯界に認め初められました。本曲は作者の

代表作で、序楽とはいえ、むしろ幻想曲風の感じを強く受けます。澄みきった夜空に微笑み輝く星を仰ぐ幸福多感な若人の将来を祝福するような暗示があるので、感傷的な嫌いはありますが、曲想の変化と美しい旋律は愛好され本邦に於てもしばしば演奏されております。

ムーアのグラナダ

前奏曲=ボアブディル王のグラナダへの訣別

アラビア風小夜曲

舞曲と終曲

グラナダの最後の王ボアブディルは祖先から継承した其王国を見棄てねば成らなくなってバテール山嶺に立った。此山上からは長い間自分の君臨したグラナダも、又今自分を攻め逐ふて居るカスティラの王女イサベラ及アラゴンの王子フェルディナンド等が陣営たりしゼニールも、更に又今から自分の逃れ行くアフリカへつらなる海も見える。彼は思はず涙を落した。而も此処彼処に回教徒(回教)の墓のしるべとなる扁杉の森を眺めては更に新たな悲しみを覚えるのであった。母なる皇后エイザはボアブディルを此地まで送って来て云った「男らしく此王国を護り得なかつた汝は今こそ女の如く悲しめ」と、そして皇后は山を下った。かくて王と運命を共にするムーア人はアフリカに四散した。然しながら楽園グラナダは永久に彼等の記憶から去らず、乳房にすがる嬰兒にも其母はグラナダの名を繰返し教へたのである。

此幻想曲は15世紀末の此悲劇を題材として、ガルシアの書いたものである。冒頭18小節の前奏曲は戦って敗れ、更に又起たんとして遂に起つ能はざりし悲惨な運命を暗示する。そして直ちに「ボアブディル王の訣別」に入る此部分が此曲の描写上の骨子となって居る事は云う迄もない。次の「アラビア風小夜曲」は中音部に主旋律をもたせ高音部を巧妙にあしらっている。最後の「舞曲と終曲」には前奏曲のすべてが再び繰返されるが、之は恐らく、ムーア人のグラナダ回顧及之を回復せんとする意気を示したものであらう。此曲はフランス・パリで発行されている月刊楽譜「エステュディアンチナ」1924年12月号で出版され、当時の優れたヴァイオリニスト、アムパルト・ペリス氏に贈られている。

1983年度 武井賞授賞作品

「ギターのためのオフランド」 原 博作

「武井賞」は日本のギターの父といはれて、ギターの歴史に大きな功績を残された故武井守成氏の名を冠した賞で優秀なギター作品に贈られるものである。

武井賞委員会

宇田川禎一、小胎剛、小原安正（会長）、兼古隆雄、小山文雄、今野有二、清水環（委員長）、鈴木豊、杉田村雄、芳志戸幹雄、山口昭三、吉田光三

1983年度（第24回）武井賞は原博作「ギターのためのオフランド」に贈られて、其授賞曲発表と記念演奏会は去る3月8日（木）夜、新宿セブンシティホールで行われましたが、故武井会長の主宰する本オーケストラの定期演奏会でも発表される習はしですので本日ここで演奏されます。

原 博 氏 略歴 1933年生れ。1957年東京芸大作曲科卒。在学中は池友内次郎教授の教室所属、1958年毎日コンクール作曲部門3位、1961～64年パリ留学、1962年ニースコンクール1位。

武井守成 ギター作品

武井守成氏は、わが国においてそれまでマンドリン・アンサンブルの中の楽器であったギターを、独奏楽器として理解し、その真価を一般に認識させ推進させたはじめての人であったが、それとともに、ギターのためにきわめて個性的なすぐれた作品を数多く発表したことは、日本の音楽界にとってかけがえのない貢献であった。

『長年の経験によって知りつくしたギターの性能と技巧を生かした作品は親しみやすく、また、虚飾のない作曲態度をもち、とりわけ日本の旋律とリズムをたくみに取り入れた日本の感情の細やかで味わいあるニュアンスは、独得の境地を示したものである。とくに氏の作品が純粋な心の反映を重んじ、見たものに対する心の動きを描写したことは、日本ギター史の一時を代表するだけでなく、独自の存在価値をもつ作曲家として永遠に残るだろうことを想像させる』と音楽評論家松本太郎氏（O. S. T. のメンバーでもあった）は述べられている。

雪 も よ い 白いものがチラチラと舞い寒々とした感じ。

や ど か り 作者の言葉に「その形態も生活もすべてが滑稽味に満ちたもの、それがやどかりである。借りものの貝殻を背負ってよちよちと歩く、人が近づけば急いで貝殻の中にかくれる。ともかく面白いものである。」

黄 色 い 花 作者の言葉「黄色い花にはエキゾチックな淋しさを感じる。私だけかも知れないが……。」

山本ミュージックコーナー

〒164 中野区東中野1-43-7

東中野駅東南口下車3分

TEL (363) 9 8 9 3

取 扱 品 目

★手工マンドリン・ギター各種

★各社マンドリン・ギター

★マンドリン・ギター用弦及付属

Y.M.C. 音楽教室の各講師が選んだ楽器を責任を持っておすすめ致します。各団体の方々に割引販売致します。

どうぞ御用命下さいませ。

Y.M.C. 音楽教室

マンドリン教室

平 山 英 三 郎 先生

高 久 倫 子 先生

ギター教室

平 山 英 三 郎 先生（ABC順）

雅楽 五常楽一急

O. S. T. の創始者当時宮内省楽部長（洋楽と雅楽）であった故武井守成男爵が、イタリア・カーピ・オペラ団の副指揮者で来日したコメリ氏を日本に止めて楽部洋楽の指揮者に迎えたのが確か昭和の始めであったと記憶する。コメリ氏は 1894 年生（明治 27 年）イタリア・ミラノ・ヴェルディ音楽院を卒業若くに来日し武井さんの媒妁で日本人を娶り日本に永住を決め戦後職を解かれ野に下り、藤原歌劇等で蝶々夫人を指揮したり、勿論 O. S. T. でも指揮されたりして居りましたが、昭和 52 年（1977 年）11 月 16 日 88 才の長寿を完うし日本の地に永眠されました。

五常楽は舜の虞韶楽の遺声なりとも称し或は唐の太宗の作とも伝えられる平調の曲で序、破、急の三楽章より成る。その急即ち第 3 楽章の主旋律と豊麗なる笙の和声の管絃楽的效果を基礎として作られた此曲はパラフレーズ（Paraphrase）と呼ぶのが正しい。東洋風の香り高さ幽玄静寂の気品に溢れるのが感受される。原曲は管絃楽で宮内省楽部の指揮者であるから、楽部により初演された。

2. 武井守成マンドリン・オーケストラ作品集

- a 小行進曲 大正 15 年 9 月 19 日、来朝中のスウェーデン皇太子同妃両殿下のすすめに依り霞ヶ関離宮にて作曲者指揮により御前演奏を行い爾後本曲名に妃殿下の名をいただく。
- b 微風 そよかぜと読ませ、昭和 22 年 N・H・K ラジオより武井さんにおやすみ番組の作曲を依頼された際、此曲が骨子となって永らく毎夜（一年間位）放送されましたが、それを後程一曲にまとめ上げて微風と題したと思います。ハバネラのリズムに乗ってさわやかなほんとは微風のような曲です。
- c 踊る小花 副題「机上の小花に寄す」となっていますが作曲者は言う。「机の上の花瓶に押された可憐な小花を前にしてそれが踊り出し勞れて倒れ、更に踊り出す幻想を画けるもの」。
- d 朝鮮の印象 作曲者の言葉「印象の骨子は京城の夜宴、平壤牡丹台の寒月、鮮内に猶見られる軍国的情調、妓生の舞踊等であるが、それ等は逐次的に叙述されていず、総合的にまとめられている」。尚此曲はラファエレ・カラーチェ氏に贈られている。
- e 祭礼の町角 作曲者の言葉「祭提灯の立ちならんだ町角に置かれた屋台、響く太鼓に笛、封建時代を思はせるむずかしい面を冠して舞う人、見入る群衆の顔又顔……町神輿が近づいて来た。金色の鳳凰が日に照り映えてゆらぐ」。

O. S. T. 理事長 杉田村雄 常任理事 高野吉司 高田三九三

理事 河合博 莊村正人 亀井武綱 伴峰夫（会計）

音楽委員 肥沼成明 岡田茂 岩片順子 筒井隆介 宮崎泰行 石黒不二夫

指揮 杉田村雄 コンサートマスター 高野吉司

第 1 マンドリン 高野吉司 本間輝樹 秋元興光
肥沼成明 新井裕久

第 2 マンドリン 岡田茂 市毛利喜夫 幸田禎治
マンドラコントラト 宮崎泰行

マンドラ 岩片順子 石井栄一 藤田正美
田中倭文子

ギター 今津章 山本雅三 嘉瀬敏
筒井隆介 城所敏夫 木村喜八郎
宮本紀子 岩木泰子

リュート 伴峰夫 岩織淳子

マンドチェロ 平山英三郎 宮崎泰行

マンドローネ 高田三九三 伴峰夫

コントラバス 石黒不二夫 三浦尚子

フルート 宇野浩二

クラリネット 大塚精治

ピアノ 梅山秀一

打楽器 松原竜一



ムニエル奏法による

マンドリン教則本

出版部編

● 菊倍判 1,600円

オデルマンドリン 教則本1・2

伊藤翁介編

● 菊倍判 ①=850円 ②=850円

(株)全音楽譜出版社 〒162 東京都新宿区東五軒町3-14 電話(267)4321(代)

加除式法規書出版

中央法規出版株式会社

本社 〒151 東京都渋谷区代々木2-27-4 電話(379)3861(代表)
営業所 札幌・仙台・岐阜・大阪・広島・福岡



落合忠男手工マンドリン

低音楽器 総発売元

服部 正先生
巨匠 中野二郎先生 推薦
鈴木静一先生
高橋 功先生

カラチエマンドリン
ヤマハ特約店

野口 実手工マンドリン総発売元

いけぶくろ楽器株式会社

東京都豊島区西池袋3-30-6 TEL(986)6568~9

Palace

MANDOLINS & MANDOLAS
MADE IN ITALY

株式会社 **グリマ楽器**

〒103 東京都中央区東日本橋 1-1-8

TEL(03)861-1351(代表)